

## <経済>

### 退職年金積立基金制度の導入義務化について

これまで、タイでは企業に退職年金積立基金（Provident Fund、以下 PF）の加入は義務化されておりませんでした。来月にも PF 加入義務化の法案が国会に提出され、早ければ 2018 年から加入が強制される流れとなっております。今月は、当該制度の概要についてご説明させていただきます。

PF は、退職金積立基金法に基づく退職給付制度のことで、雇用者と被雇用者が毎月半分ずつ基金を積み立て、運用会社に運用を委託し、被雇用者の退職時に双方が拠出した元本と運用益を合わせた金額を支給するもので、日本でいうところの確定拠出年金（DC）に該当します。既に大手の企業などでは、従業員への福利厚生の一環として、カシコン銀行などの金融機関が提供する任意の PF に加入している企業もありますが、当然ながら資金的に余裕のない中小企業や、設立まもない企業では加入を見送っている企業が多いのが現状です。

今後の PF 加入義務化の見通しとしては、義務化 1 年目となる 2018 年は従業員 100 人以上の企業が対象となり、義務化 6 年目の 2023 年には企業規模にかかわらず全企業が加入対象になります。拠出額については、拠出額算定に用いられる月給上限が 6 万バーツとされる見込みであるため、企業側の負担額は最大で従業員 1 人当たり 6,000 バーツ/月（約 18 千円）となる見通しとなっております。なお、月給が 1 万バーツ以下の従業員は低所得者とみなされるため雇用者側のみが積立金を拠出することとなる見込みです。

#### PF 義務化の見通し

	対象となる企業
2018 年	従業員 100 人以上
2021 年	従業員 10 人以上
2023 年	従業員 1 人以上

#### 企業と従業員がそれぞれ PF に拠出する金額上限

	勤続年数			
	1～3 年	4～6 年	7～9 年	10 年以上
割合/月給	3%	5%	7%	10%
拠出上限額	THB1,800	THB3,000	THB4,000	THB6,000

※拠出上限額は、月給 6 万バーツを上限として算出。

雇用者である企業が拠出する積立金は、年間人件費の 15%を超えない範囲で経費として処理ができるため、一定の節税効果はあると言えますが、従業員を多く抱える企業にとっては、人件費が大幅に上昇することとなり一概にメリットのある制度とは言えない面もあります。

今回、全企業に PF の加入が義務化される背景には、高齢化の進行と年金制度に対する将来的な不安があると考えられます。タイは、早ければ 2023 年には人口の 14%が 65 歳以上となるとの試算もあり、アセアン諸国の中では高齢化の進んでいる国と言えます。また、タイ人の大半が老後資金を全く準備せずに老後を迎えると言われており、全民間企業が強制加入しなくてはならない社会保障基金（以下、SSF）だけで退職後に経済的に自立できる高齢者は全体の 5%にも満たないと試算されています。さらに、今後は SSF の受給者（55 歳から支給開始）の急増が予測されており、2026 年には SSF の支出額が拠出額を上回り、基金が破たんする可能性も取りざたされている等、年金制度に対する不安も高まっています。

今年に入り定年退職金の支払が義務化されただけでなく、PF 加入が全企業に強制化される等、人件費に関する法改正が矢継ぎ早で実施されている状況ですので、今後も人件費をはじめとする労務面の改正には注目していく必要があると思われます。

## <社会>

### タイの交通事情

バンコクは世界有数の交通渋滞の激しい都市として日本のニュース等でも取り上げられており、車で移動するよりも徒歩で移動したほうが早いことが多々あります。

世界的にも交通渋滞が激しい都市となっている要因としては、自動車の台数が多いことと、インフラの未整備があげられます。

自動車台数急増の背景には、2011 年 10 月から 2012 年 12 月にかけて実施された自動車購入奨励策（ファーストカー制度）があります。これは、初めて自家用車を購入する国民に対し、物品税を還付する制度であり、その結果、タイの自動車年間販売台数は 2011 年の 79.4 万台から、2012 年には 143.6 万台と約 2 倍に増加しました。それに伴いバンコクへの通勤に自家用車を利用する人が増え、バンコクへの自動車の流入が急増したとされています。タイ国の国家推進改革会（NRSA）の発表では、バンコク周辺の許容交通量が 150 万台であるのに対し、自動車登録台数は 900 万台に達していたとのことであり、道路の許容量は完全にオーバーしている状態であるといえます。

交通インフラの未整備については、バンコクのスクンビットロードと呼ばれる主要幹線道路等には信号が見られますが、そこから脇道に一本入るとほとんど信号が見られません。私の住むトンロー地区も車通りの多い地区になりますが、写真のような大きな通りや、交差点にも信号がないため毎日のように渋滞が発生しています。また、信号が設置されている場所であっても時間帯によっては、未だに警察官が手動で信号の切り替えを行っている道路も多く、まったく車が進まないことも多々あります。さらに、道路の排水性も悪く、雨季の時期

には 2~3 時間雨が降り続いただけで冠水し、通行止めとなってしまう道路もあり、雨季の時期は渋滞がさらにひどくなる傾向にあります。渋滞によって引き起こされる経済的損失は莫大であり、タイ政府によると燃料の浪費だけで年間 350 億バーツ（約 1,050 億円）の損失が生じていると試算しており一日でも早い渋滞の解消が望まれています。



## タイ国内の展示会情報 (2017 年 4 月～2017 年 5 月)

### B I T E C

名 称	期 間
Furniture Fun Fair 家具	4 月 1 日～4 月 9 日
ASEAN Beauty 2017 化粧品	4 月 27 日～4 月 29 日
INTERMACH 2017 工業・産業用機械	5 月 17 日～5 月 20 日
SUBCON THAILAND 2017 下請協会主催ビジネスマッチング	5 月 24 日～6 月 4 日
HOME & DECOR 2017 家財道具全般	5 月 24 日～6 月 4 日

### I M P A C T

名 称	期 間
The 38 <sup>th</sup> Bangkok International Mort Show 2017 自動車、バイク	3 月 29 日～4 月 3 日
Print Tech 2017 & LED Expo 2017 印刷技術、機械、LED 照明	3 月 31 日～4 月 3 日
Architect Expo 2017 建築資材、内装資材	5 月 2 日～5 月 7 日
9 <sup>th</sup> International Bangkok Bike 2017 自転車	5 月 4 日～5 月 7 日
LED Expo Thailand 2017 LED 照明	5 月 11 日～5 月 13 日
Thailand Energy Saving Expo 2017 省エネ技術、設備	5 月 11 日～5 月 13 日
THAIFE-World of Food Asia 2017 食料品	5 月 31 日～6 月 4 日